

## 反射テスト 曲線 極方程式 02 難

1. 次の極方程式のグラフの概形を描け。(S級2分, A級4分, B級6分20秒, C級9分)

(1)  $r = \frac{1}{\sqrt{2} + \cos \theta}$

(2)  $r = 2 + \cos \theta \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$

2. 次の極方程式のグラフの概形を描け. ( S 級 3 分 30 秒, A 級 6 分, B 級 9 分, C 級 12 分 )

(1)  $r = \frac{1}{1 + 2 \cos \theta}$

(2)  $r = \sqrt{\sin 2\theta}$

# 反射テスト 曲線 極方程式 02難 解答解説

1. 次の極方程式のグラフの概形を描け。(S級2分, A級4分, B級6分20秒, C級9分)

## ★ 極方程式

$xy$  直交座標において,  $(x, y)$  という変数2個を用いて, 方程式を1つ作れば, 座標平面上の図形を表す. 同様に極座標においても  $(r, \theta)$  という変数2個を用いて 方程式を1つ作れば極座標平面上の図形を表す.

☆注意  $r < 0$  のときも考えるのが通例である.  $r < 0$  のとき,  $(r, \theta)$  は,  $(|r|, \theta + \pi)$  を表す.

式の形で分類し図形を全て覚えるのもいいが, 出題頻度が低いために時間も労力ももつたいない. そこで, グラフの描き方を2つ紹介する.

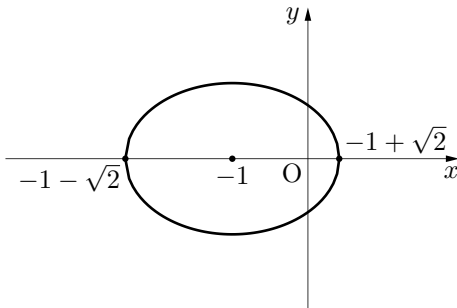
①関係式を用いる 極座標  $(r, \theta)$  と直交座標  $(x, y)$  の関係式を用いて,  $(x, y)$  の方程式に変換する.

$$r = \sqrt{x^2 + y^2} \quad x = r \cos \theta \quad y = r \sin \theta$$

②微分を用いる  $x = f(\theta), y = g(\theta)$  の形になるのであれば,  $\frac{dx}{d\theta}, \frac{dy}{d\theta}$  を計算して増減表からグラフを描く.

(1)  $r = \frac{1}{\sqrt{2} + \cos \theta}$

$$\begin{aligned} \Rightarrow \sqrt{2}r + r \cos \theta &= 1 \\ \Leftrightarrow \sqrt{2}r &= 1 - x \\ \Rightarrow (\sqrt{2}r)^2 &= (1 - x)^2 \\ \Leftrightarrow 2x^2 + 2y^2 &= 1 - 2x + x^2 \quad \dots 2 \text{次曲線} \\ \Leftrightarrow x^2 + 2x + 2y^2 - 1 &= 0 \\ \Leftrightarrow (x + 1)^2 + 2y^2 &= 2 \\ \Leftrightarrow \frac{(x+1)^2}{\sqrt{2}^2} + \frac{y^2}{1^2} &= 1 \quad \dots \text{楕円} \end{aligned}$$



★極方程式  $r = \frac{1}{a+b \cos \theta}$  は2次曲線を表す.

$$\begin{cases} a^2 - b^2 > 0 \text{ のときは, 楕円} \\ a^2 - b^2 = 0 \text{ のときは, 放物線} \\ a^2 - b^2 < 0 \text{ のときは, 双曲線} \end{cases}$$

$$\begin{aligned} r &= \frac{1}{a+b \cos \theta} \\ \Rightarrow ar &= 1 - br \cos \theta \\ \Leftrightarrow a^2 r^2 &= (1 - bx)^2 \\ \Leftrightarrow a^2(x^2 + y^2) &= (1 - bx)^2 \\ \Leftrightarrow (a^2 - b^2)x^2 + 2bx + a^2y^2 &= 1 \quad \dots 2 \text{次曲線} \end{aligned}$$

(2)  $r = 2 + \cos \theta \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$

< 京大理系 H21 類題 >

$$\begin{aligned} \begin{cases} x = r \cos \theta = 2 \cos \theta + \cos^2 \theta \\ y = r \sin \theta = 2 \sin \theta + \sin \theta \cos \theta \end{cases} \\ \Rightarrow \begin{cases} \frac{dx}{d\theta} = -2 \sin \theta - 2 \sin \theta \cos \theta \\ \frac{dy}{d\theta} = 2 \cos \theta + \cos^2 \theta - \sin^2 \theta \end{cases} \\ \Rightarrow \begin{cases} \frac{dx}{d\theta} = -2 \sin \theta (1 + \cos \theta) \\ \frac{dy}{d\theta} = 2 \cos^2 \theta + 2 \cos \theta - 1 \end{cases} \end{aligned}$$

$0 \leq \theta \leq \pi$  より,

$$\frac{dx}{d\theta} = 0 \Leftrightarrow \theta = 0 \text{ または } \theta = \pi$$

$$\frac{dy}{d\theta} = 0 \Leftrightarrow \cos \theta = \frac{-1 \pm \sqrt{3}}{2}$$

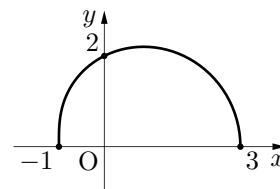
$-1 \leq \cos \theta \leq 1$  より,  $\cos \theta = \frac{-1 - \sqrt{3}}{2}$  は不適当.

$\cos \theta = \frac{-1 + \sqrt{3}}{2}$  となる  $\theta$  を  $\alpha$  とおけば,

次のような増減表が書ける.

$\theta$	0	...	$\alpha$	...	$\pi$
$\frac{dx}{d\theta}$	0	-	-	-	0
$x$		↘		↘	
$\frac{dy}{d\theta}$	0	+	0	+	
$y$		↗		↘	

よって, 以下のようなグラフが描ける.



★ 1, 2, 3 で考えろ

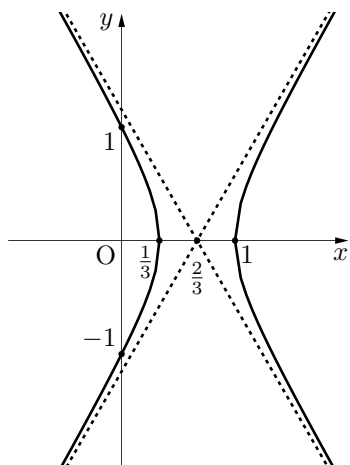
増減表は描けなくても,  $\theta = 0, \frac{\pi}{2}, \pi$  の時を代入すればだいたい形がわかる. それだけでここでは十分である.

☆京大 H21 極方程式  $r = 2 + \cos \theta \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$  を  $x$  軸の周りに1回転させたときの体積を求めよ. 答えは  $\frac{40}{3}\pi$  であるから, 力自慢はがんばってみよう.

2. 次の極方程式のグラフの概形を描け。(S級3分30秒, A級6分, B級9分, C級12分)

(1)  $r = \frac{1}{1 + 2 \cos \theta}$

$\Rightarrow r + 2r \cos \theta = 1$   
 $\Leftrightarrow r = 1 - 2x$   
 $\Rightarrow r^2 = (1 - 2x)^2$   
 $\Leftrightarrow x^2 + y^2 = 1 - 4x + 4x^2$  …2次曲線  
 $\Leftrightarrow 3x^2 - 4x - y^2 + 1 = 0$   
 $\Leftrightarrow 3(x - \frac{2}{3})^2 - \frac{4}{3} - y^2 + 1 = 0$   
 $\Leftrightarrow 9(x - \frac{2}{3})^2 - 3y^2 = 1$   
 $\Leftrightarrow \frac{(x - \frac{2}{3})^2}{(\frac{1}{3})^2} - \frac{y^2}{(\frac{1}{\sqrt{3}})^2} = 1$  …双曲線



(2)  $r = \sqrt{\sin 2\theta}$

< 慶応大・類題 >

☆直交座標にしてできないこともないが煩雑。  
このまま  $r$  を  $\theta$  で微分するのが簡単。

題意から,  $\sin 2\theta \geq 0$

$\Leftrightarrow 0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  又は  $\pi \leq \theta \leq \frac{3}{2}\pi$

ゆえに第1象限と第3象限に同じ形が現れる。

第3象限は第1象限を原点に関して対称移動したものと考えてもよい。

$\frac{dr}{d\theta} = \frac{1}{2\sqrt{\sin 2\theta}} \cdot 2 \cos 2\theta = \frac{\cos 2\theta}{\sqrt{\sin 2\theta}}$

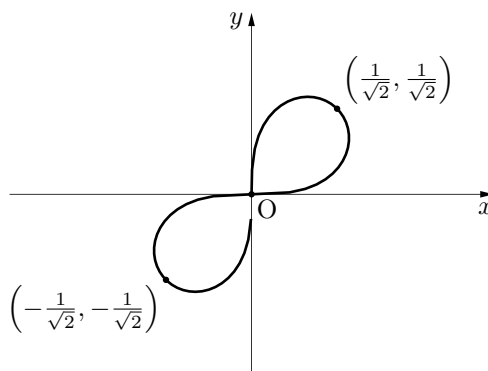
$\frac{dr}{d\theta} = 0 \Leftrightarrow \cos 2\theta = 0$

$0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  より,  $\theta = \frac{\pi}{4}$  のとき極値をとる。

以上から, 次のような増減表が書ける。

$\theta$	0	...	$\frac{\pi}{4}$	...	$\frac{\pi}{2}$
$\frac{dr}{d\theta}$		+	0	-	
$r$	0	↗	極値	↘	0

よって, 以下のようなグラフが描ける。



☆イメージ

$\sin 2\theta$  が  $0 \sim \pi$  で1回りし以下その繰り返しであるから, 循環する関数である。よって円のようにサイクルのある図形になる。このイメージがあれば概形を描くのは難しくない。

★1, 2, 3 で考えろ

増減表は描けなくても,  $\theta = 0, \frac{\pi}{4}, \frac{\pi}{2}$  の時を代入すればだいたい形がわかる。それだけでここでは十分である。